

西濃教育事務所
「例えばこんな授業」シリーズ
小・算数編

学年・単元名	第4学年・大日本図書「13 整数と小数のかけ算・わり算」
単元のねらい	小数に整数をかける乗法や、小数を整数でわる除法について、計算の意味や計算の仕方を既習の計算をもとに考え、筆算で計算することができる。
本時のねらい	あまりの大きさに着目し、あまりをさらに分ける計算の仕方を話し合う活動を通して、わり進む計算の仕方と意味を理解し、筆算で計算することができる。(思考・判断・表現)

学 習 内 容	留 意 事 項
<p>1 問題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">3.4mのテープを4等分します。1つ分は何mですか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 「3.4÷4」を計算するとよいことを確認する。 筆算の途中過程をみて、表れた「2」の意味を話し合う。【小集団】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">S1:0.1が2こ分です。 S2:0.1mが2こ分なので20cmのことです。</div> <p>2 本時の課題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">筆算で、あまりをさらに分けきる方法を考えよう。</div> <p>3 筆算の続きを考える。【個・小集団・全体】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>S1:「0.1が2こ分」を「0.01が20こ分」とみれば、4等分できる。</p> <p>S2:筆算では、右に進むほど位が下がっている。1/10の位の右に、1/100の位を付け足せばよさそうだ。</p> <p>S3:3.4を3.40とみて、わり進めようだ。</p> <p>S4:20÷4=5だから整数のわり算として計算できる。</p> <p>S5:1回わり進めたら、あまりが0になった。4等分できた。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 結果を確認する。 <p>0.85mは、85cmだから、340cmを4等分すると、85cmになるね。</p> <p>4 他の計算でも同じように考えることができるか確かめる。【個】</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> $\begin{array}{r} 0.4 \\ 5 \overline{) 2.40} \\ \underline{20} \\ 40 \end{array}$ </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 2.4÷5の筆算の途中過程を確認する。 「40」は、何のいくつ分か、またこの先どのように計算を進めていくか、説明を書き、協働学習支援ツールで提出する。 わり進み筆算を仕上げる。 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>S1: 40は、0.01が40こ分</p> <p>40÷5を計算するとよい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> $\begin{array}{r} 0.48 \\ 5 \overline{) 2.40} \\ \underline{20} \\ 40 \\ \underline{40} \\ 0 \end{array}$ </div> </div> <p>5 本時のポイントを全体で確認し、個々にまとめる。【全体→個】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">【書きまとめ例】あまりがでたら、一つ下の位をみて、0をつけて、さらにわり進めればよい。</div> <p>6 学びを確認する。【個】(NEW!GIFU ウェブラーニング)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2回わり進む問題に取り組む。(第11時 1問目 18÷8) <p>7 本時の振り返りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">1回、2回とわり進めるとあまりが0になったけれど、3回、4回と続く計算もあるか調べてみたい。</div>	<p style="text-align: center;">留 意 事 項</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際のテープを提示し、本時はあまりを出さないように分けきることが条件であることを視覚的に確認する。 全体で、筆算の途中まで順に確認し、本時は「あまりの有無」を注目することを児童と共有し、焦点化した課題を生み出す。 筆算中の各数が、どの位の数であるか意識するよう視点を与える。 一つ下の位を見て20とみることで、既習の整数のわり算で計算できるよさを確認する。 小集団で意見し合ったことがらを、個々に整理し、書きまとめる。 筆算の結果が問題にあっているか、4等分したテープと比較することで、正しいことを視覚的に確認する。 考えた方法がいつでも使えそうか試し、一般化する。 <p>【評価の場(見取る内容)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明する内容と記述する筆算 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>筆算でわり進む方法とその仕組みを、既習の整数の除法と小数の仕組みをもとに考えている。</p> <p>《観察・ノート》(指導に生かす評価)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 評価をもとに、指導を補足する。 評価し、指導したことが定着しているか確認する。 リアルタイム把握機能を使って、その場で個別に指導する。

$$\begin{array}{r} 0.8 \\ 4 \overline{) 3.4} \\ \underline{32} \\ 2 \end{array}$$

1	1
10	100
の位	の位

$$\begin{array}{r} 0.8 \\ 4 \overline{) 3.40} \\ \underline{32} \\ 20 \\ \underline{20} \\ 0 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 0.85 \\ 4 \overline{) 3.40} \\ \underline{32} \\ 20 \\ \underline{20} \\ 0 \end{array}$$

本単元の主な学習活動
小単元「小数÷整数」 第6～9時(小数÷整数)
○計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。
・帯小数(1/10の位)÷整数(1位数)
・一の位がわりきれない場合の帯小数(1/10の位)÷整数(1位数)
・小数(1/10の位)÷整数(1位数)で、商が1より小さくなる場合の筆算
・帯小数(1/10の位)÷整数(2位数)の筆算
・小数(1/100の位)÷整数(1,2位数)
第10時(あまりのあるわり算)
・あまりのある小数÷整数の計算で、あまりの大きさを理解し、計算する。
第11～12時(わり進みの計算)
第13時(小数と倍)
・何倍かを表すときに小数を用いることがあることを理解する。
第14時(たしかめ問題)